

## 耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領

平成21年4月1日付け20農振第2208号  
最終改正 平成30年3月28日付け29農振第2138号  
農林水産省農村振興局長通知

### 第1 耕作放棄地対策協議会の設置手続

- 1 耕作放棄地再生利用緊急対策実施要綱（平成21年4月1日付け20農振第2207号農林水産事務次官依命通知。以下「要綱」という。）第5の1の規定に基づく都道府県耕作放棄地対策協議会（以下「都道府県協議会」という。）又は地域耕作放棄地対策協議会（以下「地域協議会」という。）の設置に当たっては、当該協議会を設置しようとする者は、当該協議会の運営等に係る規約その他の規程及び事業計画を策定し、会員となる予定の者で構成する設立総会を招集し、その議決を得るものとする。

また、協議会の運営等に係る規約その他の規程は、別紙1から別紙12までに示した規程例等を参考に、次に掲げるものを策定するものとする。

#### (1) 都道府県協議会に係る規約及び規程

- ア 協議会規約（別紙1）
- イ 事務処理規程（別紙2）
- ウ 会計処理規程（別紙3）
- エ 文書取扱規程（別紙4）
- オ 公印取扱規程（別紙5）
- カ 内部監査実施規程（別紙6）

#### (2) 地域協議会に係る規約及び規程

- ア 協議会規約（別紙7）
- イ 事務処理規程（別紙8）
- ウ 会計処理規程（別紙9）
- エ 文書取扱規程（別紙10）
- オ 公印取扱規程（別紙11）
- カ 内部監査実施規程（別紙12）

なお、当該協議会の機能を経営所得安定対策等推進事業実施要綱（平成27年4月9日付け26経営第3569号農林水産事務次官依命通知）別紙1の第1あるいは第2の都道府県農業再生協議会あるいは地域農業再生協議会に統合した場合は、この限りではない。

- 2 要綱第5の3の規定に基づく手続は、次に定めるとおりに行うものとする。

- (1) 都道府県協議会の代表者（以下「都道府県協議会長」という。）は、本対策を実施しようとするときは、都道府県協議会が事務所を置く都道府県を管轄する地方農政局長等（北海道にあっては農林水産省農村振興局長、沖縄県にあっては内閣府沖縄総合事務局長、その他の都府県にあっては地方農政局長をいう。以下同じ。）に会員名簿、協議会の運営等に係る規約その他の規程及び事業計画を添えて、参考様

式第1号により承認を申請しなければならない。

- (2) 地方農政局長等は、(1)の申請の内容を審査し、要綱第5の2の要件を満たすものであると認められる場合には、申請を受けた日から10日以内にこれを承認し、その旨を都道府県協議会長に通知しなければならない。
- (3) 都道府県協議会長は、1(1)の規約その他の規程を変更したときは、速やかに地方農政局長等に参考様式第2号により届け出なければならない。
- (4) 地方農政局長等は、都道府県協議会が要綱第5の2の要件を欠いたと認められる場合又は本対策の実施に当たって不正を行い、これを是正する措置を執らなかったと認められる場合は、(2)の承認を取り消すことができるものとする。また、(2)の承認を取り消したときは、承認を取り消した理由を書面により都道府県協議会長に通知しなければならない。

3 要綱第5の4の規定に基づく手続は、次に定めるとおりに行うものとする。

- (1) 地域協議会の代表者（以下「地域協議会長」という。）は、本対策を実施しようとするときは、都道府県協議会長に会員名簿、規約その他の規程及び事業計画を添えて、参考様式第3号により承認を申請しなければならない。
- (2) 都道府県協議会長は、(1)の申請の内容を審査し、要綱第5の2の要件を満たすものであると認められる場合には、申請を受けた日から10日以内にこれを承認し、参考様式第4号により地域協議会長に通知しなければならない。この場合、都道府県協議会長は、参考様式第5号により地方農政局長等に報告するものとする。
- (3) 地域協議会長は、1(2)の規約その他の規程を変更したときは、速やかに都道府県協議会長に参考様式第6号により届け出なければならない。
- (4) 都道府県協議会長は、地域協議会が要綱第5の2の要件を欠いたと認めた場合又は本対策の実施に当たって不正を行い、これを是正する措置を執らなかったと認めた場合であって、(2)の承認を取り消そうとするときは、あらかじめ地方農政局長等から、執るべき措置について指示を受けるとともに、その指示の内容について総会の議決を得なければならない。また、(2)の承認を取り消したときは、承認を取り消した理由を書面により地域協議会長に通知しなければならない。

## 第2 実施の手続

### 1 都道府県協議会関係

- (1) 要綱第6の1(1)の規定に基づく手続は、次に定めるとおりに行うものとする。
  - ア 都道府県協議会長は、次に掲げる項目を内容とする再生利用推進計画を作成し、参考様式第7号により、地方農政局長等に承認を申請しなければならない。なお、添付する添付様式7の事業計画は、平成28年度及び平成29年度のそれぞれ決算確定後速やかに実施状況を点検し、実態に見合った合理的な理由を有する基金規模となるよう計画の見直しを行わなければならない。
    - a 都道府県の地域区分別の農業・荒廃農地の現状、課題等を踏まえた荒廃農地再生利用の方向性
    - b 協議会の会員の役割分担

- c 地域協議会に対する指導・助言、荒廃農地再生利用のための検討会開催、制度・施策の啓発・普及等の計画
  - d 再生見込み面積、概算事業費、取組推進体制
  - e その他必要な事項
- イ 都道府県協議会長は、次に掲げる項目を内容とする業務方法書を作成し、参考様式第7号により、地方農政局長等に承認を申請しなければならない。
- a 都道府県協議会の業務運営の基本方針
  - b 要綱第2の2の耕作放棄地再生利用交付金（以下「再生利用交付金」という。）の管理方法
  - c 再生利用交付金の地域協議会への交付に係る地域協議会から都道府県協議会への交付申請に関する事項
  - d 再生利用交付金の地域協議会への交付に係る都道府県協議会から地域協議会への交付に関する事項
  - e その他業務運営に必要な事項
- ウ 地方農政局長等は、ア及びイにより申請があった再生利用推進計画及び業務方法書について、その内容が適切であると認められる場合には、申請を受けた日から10日以内にこれを承認し、都道府県協議会長に通知しなければならない。
- エ ウにより地方農政局長等から再生利用推進計画及び業務方法書の承認の通知を受けた都道府県協議会長は、速やかに地域協議会長（地域協議会長が定まっていない場合については、市町村長又は地域協議会の会員となる予定の者）に再生利用推進計画及び業務方法書の内容を通知するものとする。
- オ 再生利用推進計画及び業務方法書を変更しようとするときの手続は、アからエに準ずるものとする。

- (2) 都道府県協議会長は、2の(1)により提出された再生利用実施計画に係る審査に当たっては、都道府県協議会の構成員である都道府県等の補助事業に精通した者が実施するなど審査精度を高めるように努めるものとする。
- (3) 要綱第6の1(2)の再生利用活動附帯事業の実施計画の提出は、別記によるものとする。

## 2 地域協議会関係

要綱第6の2の規定に基づく手続は、次に定めるとおりに行うものとする。

- (1) 地域協議会長は、地域協議会の構成員である市町村等の補助事業に精通した者が主体となって、次に掲げる項目を内容とする再生利用実施計画を作成し、参考様式第9号により、都道府県協議会長に提出するものとする。
- ア 当該農地を耕作する農業者又は農業者等の組織する団体等の予定又は見通し
  - イ 導入作物の候補及び販路の計画
  - ウ 要綱別紙1第1の1及び要綱別紙2第1の1の取組の主体及び費用・労力の負担区分
  - エ 要綱別紙1第1の2及び要綱別紙2第1の2の施設等補完整備を行う場合は、その目的、概要、取組主体、事業費、負担区分、管理主体等
- なお、再生利用実施計画に新たな取組及び追加する取組がある場合には、平成29年

度末までとし、平成30年度にあつては、以下の場合に限るものとする。

ア 再生利用可能な荒廃農地の農地中間管理機構への利用権設定を進めることにより、荒廃農地の解消に資すると認められるものであること。

イ 被災農業者等が避難先等で荒廃農地を活用する際の荒廃農地の再生作業や再生農地における営農活動への支援と認められるものであること。

ウ その他、地域協議会長が特に必要と認め、都道府県協議会長の同意を得たものであること。

(2) 要綱第6の2(2)の地域協議会が行う再生利用活動附帯事業の実施計画の提出は、別記によるものとする。

### 3 事務の委託

都道府県協議会及び地域協議会は、本対策に係る事務の一部を当該協議会の運営等に係る規約その他の規程等の定めるところにより、当該協議会の会員その他の者に委託することができるものとする。

### 4 関係書類の閲覧

地方農政局長等は、必要に応じて、都道府県協議会及び地域協議会の経理内容を調査し、本対策に係る交付申請の基礎となった関係書類等の閲覧を求めることができる。

また、都道府県協議会長は、必要に応じて、地域協議会の経理内容を調査し、本対策に係る交付申請の基礎となった関係書類等の閲覧を求めることができる。

### 5 経理事務指導

地方農政局長等は、必要に応じて、都道府県協議会及び地域協議会に対し、本対策に係る経理が適切に行われるよう必要な指導を行うものとする。

また、都道府県協議会長は、必要に応じて、地域協議会に対し、本対策に係る経理が適切に行われるよう必要な指導を行うものとする。

### 6 証拠書類の保管

都道府県協議会及び地域協議会は、再生利用交付金の交付申請の基礎となった証拠書類又は証拠物及び交付に関する証拠書類又は証拠物を、事業の完了の日の属する年度の翌年度から起算して5年間整備・保管しなければならない。

### 7 都道府県協議会及び地域協議会の業務運営の透明性の確保

都道府県協議会及び地域協議会は、会員名簿、協議会の運営等に係る規約その他の規程、事業計画、実績報告その他本対策を実施する上で定めた計画等について、インターネット、広報誌等により公開に努めるものとする。

### 8 基金管理状況報告

都道府県協議会は、平成28年度から毎年度の決算確定後速やかに、要綱第7により造成された基金の収支について、基金事業実施状況報告書（耕作放棄地再生利用緊急対策

交付金交付要綱（平成21年4月1日付け20農振第2209号農林水産事務次官依命通知。以下「交付要綱」という。）において定める基金事業実施状況報告書（別記様式第8号）をいう。）を作成し、その内容を公表しなければならない。

### 第3 報告

要綱第9の各年度の実績の報告は、第4の6及び別記により行うものとする。

また、地方農政局長等は都道府県協議会長に、都道府県協議会長は地域協議会長に対し、必要に応じて、本対策の実施状況について報告を求めることができるものとする。

この場合において、地方農政局長等は、報告を受けた実施状況について検討し、必要があると判断したときは、関係する資料の提出の要求や現地調査を実施することができるものとする。この際、都道府県協議会長及び地域協議会長は、地方農政局長等の求めに応じ、当該資料の提出の要求や現地調査に協力するものとする。

### 第4 再生利用交付金

#### 1 事業の内容

(1) 要綱別紙1第1の1(1)の「貸借等により当該農地を長期間にわたって耕作する者」とは、賃借権・使用貸借権の設定・移転、所有権の移転、農作業受委託等によって、再生作業後当該農地において5年間以上耕作する農業者又は農業者等の組織する団体等とする。農地中間管理機構が事業を実施する場合は、「貸借等により当該農地を長期間にわたって耕作する者」を確保しているものとみなす。

ただし、当該農地において、経営所得安定対策等実施要綱（平成23年4月1日付け22経営第7133号農林水産事務次官依命通知）別紙12の戦略作物助成の要件を満たす戦略作物又は同別紙13の産地交付金による助成内容の設定により当該地域において産地交付金の対象と設定された作物のいずれかを再生作業後当該農地において5年間以上生産する場合に限り、当該農地の所有者もこれに該当するものとする。

また、要綱別紙2第1の1(1)の「貸借や農地所有適格法人による雇用、農業体験施設での農作業等により東日本大震災の被災農業者等が当該農地を長期間にわたって耕作する環境」とは、被災農業者等又は被災農業者等を雇用し若しくは被災農業者等に栽培管理等を委託する農地所有適格法人等が、自ら有する所有権、賃借権・使用貸借権の設定・移転、所有権の移転、農作業受委託等によって、再生作業後当該農地において5年間以上耕作する環境を整えている場合等とする。

(2) 要綱別紙1第1の1(3)及び要綱別紙2第1の1(3)の「営農定着」については、当該農地に作付けする作物が麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょ、そば、なたねである場合、当該農地が経営所得安定対策等実施要綱別紙1の水田活用の直接支払交付金の交付対象農地に該当する場合及び当該農地を要綱別紙1第1の2の「農業体験施設」として活用する場合は、支援の対象とならない。

(3) 要綱別紙1第1の1(4)の「実証ほ場の設置・運営」に取り組む場合には、実証により得られた知見を活用するため、実証ほ場の成果を確実に取りまとめ、インターネットの利用その他の方法により公表するものとする。

(4) 要綱別紙1第1の2の「農業体験施設」は、要綱別紙1第2の1(1)と同様の

状態にあった農地について自助努力等によって再生作業がなされたことを地域協議会長が確認した上で、当該農地を要綱別紙1第1の1又は要綱別紙2第1の1の取組に附帯せず単独で整備する場合も支援の対象とすることができるものとする。

- (5) 要綱別紙1第1の2の「農業体験施設」のうち「市民農園」は、特定農地貸付けに関する農地法等の特例に関する法律（平成元年法律第58号）第3条第3項の規定に基づく特定農地貸付けの承認又は市民農園整備促進法（平成2年法律第44号）第7条第3項の規定に基づく市民農園の開設の認定を受けているものに限るものとする。
- (6) 要綱別紙1第1の2の「農業用機械・施設」は、農業用機械施設補助の整理合理化について（昭和57年4月5日付け57予第401号農林水産事務次官依命通知）の基準を適用しないものとする。
- (7) 要綱別紙1第1の2の「農業用機械・施設」は、既存の機械、施設及び資材の有効利用、事業費の低減等の観点から、地区の実情に即し必要があると認められる場合は、古品古材の利用による整備を支援対象とすることができるものとする。  
なお、残存耐用年数が、原則として、5年以上（本対策により補修及び改修を行う施設については、補修及び改修後の耐用年数が5年以上）、中古農業用機械にあつては2年以上（本対策により修繕を行う機械については、修繕後の耐用年数が2年以上）のものであることとする。
- (8) 要綱別紙1第1の2の「農業用機械・施設」の支援対象とする農業用機械・施設は、原則として、農業経営の用途のみに使用することができるものとし、倉庫、運搬用トラック、パソコン、フォークリフト、ショベルローダー（ホイールローダー及びフロントローダーを含む。）、トレーラー等農業経営の用途以外の用途に容易に供することが可能な汎用性の高いものは支援対象としないこととする。
- (9) 要綱別紙1第1の3及び要綱別紙2第1の3の再生利用活動附帯事業の事業の内容については、別記のとおりとする。

## 2 対象農地

- (1) 要綱別紙1第2の1（1）の「一定以上の労力と費用を必要とする」とは、再生作業に要する標準的な労力と費用が10アール当たり100,000円以上、要綱別紙2第2の1の対象農地にあつては10アール当たり50,000円以上に相当する程度となるものとする。
- (2) 要綱別紙1第2の1（2）の「再生作業がなされたことの確認」は、当該再生作業に要する標準的な労力と費用が10アール当たり100,000円以上、要綱別紙2第2の1の対象農地にあつては10アール当たり50,000円以上に相当する程度となることを、文書その他の記録により、地域協議会長が確認するものとする。
- (3) 要綱別紙1第1の1及び要綱別紙2第1の1の取組に附帯して行う施設等補完整備の取組の対象が要綱別紙1第1の2の「農業用施設・機械」である場合には、要綱別紙1第2の2及び要綱別紙2第2の2の「その周辺の農地」は、状況調査要領7の①の区分に該当する状態から自助努力等によって再生作業がなされたことを地域協議会長が確認した農地に限る。

- (4) 要綱別紙1第1の1(2)及び要綱別紙2第1の1(2)の「土壌改良」の取組は、取組に要する標準的な労力と費用が10アール当たり50,000円以上に相当する程度となるものとする。
- (5) 要綱別紙1第1の1(3)及び要綱別紙2第1の1(3)の「営農定着」の取組は、取組に要する標準的な労力と費用が10アール当たり50,000円以上に相当する程度となるものとする。
- (6) 要綱別紙1第1の2及び要綱別紙2第1の2「小規模基盤整備」の取組は、取組に要する標準的な労力と費用が10アール当たり50,000円以上に相当する程度となるものとする。

### 3 事業の仕組み

#### (1) 再生利用交付金の交付の方法

都道府県協議会は、第2の2により提出され、交付対象として決定した再生利用実施計画及び再生利用活動附帯事業の実施計画に基づく事業の実施に要する経費に充てるため、地域協議会に対し、再生利用交付金を交付することができるものとする。

#### (2) 基金の管理・運用

##### ア 都道府県協議会

都道府県協議会は、要綱第7により造成された基金（以下「基金」という。）の取扱いについては、以下のとおりとする。

- a 都道府県協議会は、基金以外の資金（会員からの補助金等）の積立てを行う場合には、当該資金について別の勘定を設けなければならない。
- b 都道府県協議会は、基金を金融機関への預金又は貯金により管理するものとする。
- c 都道府県協議会は、基金の運用により生じた運用益を基金に繰り入れるものとする。
- d 都道府県協議会は、平成30年度末に基金に残額が生じたときは、当該残額を国に返還するものとする。

また、第2の1の(1)のアのなお書き以下の見直しを行い、地方農政局長等の承認を受けた場合において、平成30年度までの執行予定額を超える基金保有額がある場合には、別に定めることにより、これを返納するものとする。なお、国は、本対策が完了する前であっても、本対策に「補助金等の交付により造成した基金等に関する基準（平成18年8月15日閣議決定）」3の(4)アを準用し使用見込みの低い基金があるときは、当該残額を納付させることがある。

##### イ 地域協議会

地域協議会は、都道府県協議会から交付される再生利用交付金を要綱別紙1第1の1（再生利用活動）、同第1の2（施設等補完整備）及び同第1の3（再生利用活動附帯事業）とに区分した上で、他の事業と区分して経理しなければならない。また、要綱別紙2による再生利用交付金もこれと同じ取扱いとする。

なお、都道府県協議会から交付される再生利用交付金によるものの取扱いにつ

いては、以下のとおりとする。

- a 地域協議会は、都道府県協議会から交付される再生利用交付金以外の資金（都道府県又は会員からの補助金、要綱別紙1第3の5の所有者から徴収する負担金等）を要綱別紙1第1又は要綱別紙2第1の取組に充てる場合には、当該資金について別の勘定を設けなければならない。
- b 地域協議会は、各年度末に、都道府県協議会から交付される再生利用交付金に残額が生じたときは、前年度から年度を越えて実施する取組を除き、これを都道府県協議会に返還するものとする。

#### 4 施設等の管理

要綱別紙1第1の1（4）の「実証ほ場の設置・運営」並びに要綱別紙1第1の2及び要綱別紙2第1の2の施設等補完整備によって取得又は効用の増加した施設等については、常に良好な状態で管理し、その整備目的に即して最も効率的な運用を図るものとする。

##### （1）管理主体

- ア 施設等の管理は、原則として、要綱別紙1第3の3、4又は6のそれぞれの場合において、その取組の主体がこれを行うものとする。
- イ ただし、要綱別紙1第3の4又は6の場合において、都道府県協議会の会員又は地域協議会の会員若しくは当該施設等の受益地域の農業者又は農業者等の組織する団体等のうち、都道府県協議会又は地域協議会が直接管理する場合より、その施設等の整備目的の達成等の見地からより適切な管理を行うものと認められる場合、その団体等に管理させることができる。
- ウ この場合、都道府県協議会長又は地域協議会長は、管理の委託を受ける者と、管理を委託する施設等の種類、設置場所、移管の年月日、管理方法、管理の委託を受ける者の権利、義務等必要な事項について協議し、委託契約を締結するものとする。

##### （2）管理方法

- ア 都道府県協議会及び地域協議会は、施設等の管理状況を明確にするため、財産管理台帳を備えておくものとする（交付要綱の別記様式第7号参照）。
- イ 管理主体は、その管理する施設等について、総会の議決等所要の手続を経て管理規程又は利用規程を定めることにより適正な管理運営を行うとともに、施設等の継続的活用を図り得るよう更新に必要な資金の積立に努めるものとする。
- ウ 管理規程又は利用規程には、次に掲げる事項のうち施設等の種類に応じて必要な項目を明記するものとする。
  - a 目的
  - b 種類、名称、構造、規模、型式、数量
  - c 設置場所
  - d 管理責任者
  - e 利用者の範囲
  - f 利用方法に関する事項
  - g 利用料に関する事項



- h 保全に関する事項
- i 償却に関する事項
- j その他必要な事項

エ 本対策により整備した施設等には、本対策の名称等を表示するものとする。

(3) その他

本対策によって取得又は効用の増加した施設等の処分等の詳細は、補助事業等により取得し、又は効用の増加した財産の処分等の承認基準（平成20年5月23日付け20経第385号農林水産省大臣官房経理課長通知）に準じるものとする。

5 助成措置

(1) 要綱別紙1第4の1及び要綱別紙2第4の1の「対象農地の面積」は、農地台帳又は実測によるものとする。

(2) 要綱別紙1第4の1(3)の「重機を用いて行う等の再生作業」及び同第4の2の施設等補完整備の「事業費」とは、次に該当するものとする。また、その施行及び積算については、農山漁村振興交付金実施要領（平成28年4月1日付け27農振第2326号農林水産省農村振興局長通知）別紙6に準じて行うものとするほか、重機を用いて行う等の再生作業（土壌改良を除く）及び施設等補完整備の実施に際しての労務提供に係る人件費相当額を、事業費の2分の1（沖縄県は3分の1）までを限度として算入することができるものとする。なお、1地区当たりの事業費が5千万円以上の場合、当該施設等補完整備によるすべての効用によってすべての費用を償うことが見込まれなければならない。

ア 重機を用いて行う等の再生作業及び施設等補完整備のうち基盤整備

- a 工事費
- b 測量及び試験費
- c 機械器具費
- d 営繕費
- e 用地費及び補償費
- f 全体実施設計費
- g 換地費
- h 工事雑費

イ その他

- a 工事費（建設工事費、製造請負工事費、機械器具費）
- b 実施設計費
- c 工事雑費

(3) 要綱別紙1第1の1(4)及び要綱別紙2第1の1(4)(経営展開)について、要綱別紙1第4の1(4)及び要綱別紙2第4の1(2)の助成措置の対象となる経費は、下表のとおりとする。

区 分	内 容

1	賃金	日々雇用者賃金
2	謝金	外部講師、指導員、協力者等への謝金
3	旅費	普通旅費、特別旅費（外部講師等旅費、研修旅費、日額旅費）
4	需用費	消耗品費、燃料費、印刷製本費、修繕料
5	役務費	通信運搬費、手数料、広告料等
6	委託料	事務の委託を行う場合の委託料
7	使用料及び賃借料	会議・研修用会場、物品等の使用料及び賃借料
8	備品購入費	物品・備品、資材等購入費
9	共済費	保険料
10	調査試験費	調査、測量及び試験に要する費用

(4) 要綱別紙1第1の1(4)及び要綱別紙2第1の1(4)の「経営展開」のうち「実証ほ場の設置・運営」、「加工品試作」及び「試験販売」の実施により販売収入が生ずる場合には、これらの取組の助成措置の対象となる経費から当該販売収入を控除した額をこれらの取組に係る交付額の上限とする。

(5) 要綱別紙1第1の3及び要綱別紙2第1の3の再生利用活動附帯事業の助成措置については、別記のとおりとする。

## 6 実績の確認と報告

(1) 要綱別紙1第5の1の報告の内容は次のとおりとし、参考様式第11号により、地域協議会長が定める日までに提出するものとする。

ア 要綱別紙1第1の1(1)及び要綱別紙2第1の1(1)の「再生作業」、要綱別紙1第1の1(2)及び要綱別紙2第1の1(2)の「土壌改良」及び要綱別紙1第1の1(3)及び要綱別紙2第1の1(3)の「営農定着」については、作業記録、写真等

イ 要綱別紙1第1の1(4)及び要綱別紙2第1の1(4)の「経営展開」については、実施内容の記録等

ウ 要綱別紙1第1の2及び要綱別紙2第1の2の「施設等補完整備」については、出来高設計書、写真、領収書等

(2) 要綱別紙1第5の2の報告は、参考様式第12号により、都道府県協議会長が定める日までに提出するものとする。

(3) 要綱別紙1第5の3(1)及び(2)の報告は、参考様式第13号により事業実施年度の翌年度の5月31日までに、同第5の3(3)の報告は、参考様式14号により事業実施年度の翌年度の4月10日までに提出するものとする。

## 第5 留意事項

1 本対策の実施主体である都道府県協議会及び地域協議会は、協議会としての活動を担保し、これを明確化するため、本対策の実施に当たっては、次の点に留意するものとする。

(1) 本対策に係る各般の取組が、協議会総会で承認された事業計画に基づくものであ

ること。

(2) 本対策に係る各種の申請、報告等は、協議会長名で行うこと。

(3) 本対策に係る検討会の会場、啓発・普及のために作成する各種広報資材、購入する事業用物品等には、協議会の名称を明記すること。

- 2 本対策により再生した農地及び自助努力等によって再生作業がなされ、本対策により土壌改良及び営農定着の支援の対象となった農地について、地域協議会は、再生作業後当該農地において5年間耕作するまで、毎年度の耕作状況の確認を確実に行わなければならない。また、地域協議会は、当該農地について再生作業が終了した日から自然災害その他やむを得ない理由により5年を経ずして再び耕作されなくなった場合には、別紙13のフロー図により、営農を再開するために必要な指導や支援、新たな耕作者の確保等について検討するものとする。さらに、再生作業後当該農地において5年間耕作した後も、地域協議会は引き続き貸借等が継続されるよう努めることとする。

なお、耕作状況の確認結果（耕作が行われていない場合の指導内容や今後の耕作再開の見通しを含む）については、参考様式第18号により第4の6（2）で都道府県協議会長が定める日までに都道府県協議会長に提出するものとする。

- 3 本対策の終了後、協議会を解散しようとする場合、都道府県協議会長及び地域協議会長は、協議会の役割を承継する会員を定め、総会の議決を得るとともに、地域協議会長は都道府県協議会長の、都道府県協議会長は地方農政局長等の承認を得なければならない。

- 4 本対策は、再生利用交付金の交付決定後に着手するものとする。

ただし、地域の実情に応じて本対策の効率的な実施を図る上で、緊急かつやむを得ない事情がある場合には、都道府県協議会長の交付決定前に着手できるものとし、この場合、地域協議会長は都道府県協議会長の指導を受けた上で、交付決定前着手届を参考様式第15号により提出しなければならないものとする。

- 5 要綱別紙1第1の1（1）及び要綱別紙2第1の1（1）並びに要綱別紙1第1の2の「基盤整備」の⑤については、その整備の実施後8年を経過しない間に同一の主体による一連の行為により10アール以上の受益地について農地転用が行われた場合、要綱別紙1第1の2の「基盤整備」の①については、その整備の実施後8年を経過しない間に同一の主体による一連の行為により受益地の10分の1以上の農地転用が行われた場合並びに要綱別紙1第1の2の「農業体験施設」については、その整備の実施後8年を経過しない間に当該農地が転用され又は当該施設が廃止された場合には、以下の場合を除き、再生利用交付金の返還措置を講ずるものとする。

(1) 土地収用法（昭和26年法律第219号）第26条第1項の規定による告示（他の法律の規定による告示又は公告で同項の規定による告示とみなされるものを含む。）に係る事業の用に供する場合

(2) 受益地において農業を営む者の農業経営上必要な施設の用に供する場合であって、地方農政局長等が交付金を返還させないことを相当と認める場合

(3) 上記のほか、地方農政局長等が農村振興局長と協議して（北海道にあっては農村振興局長が）特にやむを得ないと認める場合

- 6 本対策の取組の主体及び実施主体は、地域の実情にかんがみ、過剰と見られるよう

な施設等の整備を排除する等、徹底した事業費の低減に努めるものとする。

- 7 要綱別紙1第4の1(1)及び要綱別紙2第4の1(1)に定める定額交付に当たっては、都道府県協議会及び地域協議会は、特にその交付金の使途について厳正に管理することとし、使途を証明する領収書等関係書類等を整備しておくものとする。
- 8 都道府県協議会は、地域協議会に再生利用交付金の交付の決定をするときは、補助金等に係る予算の適正化に関する法律(昭和30年法律第179号)第22条の規定に準ずる条件を附するとともに、基金を取崩したときには、当該取崩額に係る補助金相当額を遅滞なく、地域協議会に交付するものとする。

別記(第2の1(3)及び2(3)、第3、第4の1(9)及び5(5)関係)

### 再生利用活動附帯事業について

#### 第1 事業内容

##### 1 交付金執行事務

都道府県協議会及び地域協議会が実施する再生利用交付金の執行のために必要な次の取組に対する助成を行うものとする。

- (1) 再生利用交付金の交付事務
- (2) 再生利用交付金の執行に係る指導・助言
- (3) 再生利用推進計画又は再生利用実施計画の策定・見直し
- (4) 実績報告書審査・現地確認
- (5) 地域における農地利用調整活動
- (6) 荒廃農地再生利用のための啓発・普及
- (7) その他再生利用交付金の執行に必要な事務

##### 2 広域利用調整

都道府県協議会が荒廃農地の再生利用を目的として都道府県域を越えて行う農地利用調整活動への支援として次の取組に対する助成を行うものとする。

- (1) 引き受け候補者に対する説明会の開催及び情報ネットワークの構築
- (2) 引き受け候補者参入のためのワンストップ相談窓口の設置
- (3) 受入候補地の詳細調査・受入条件の整理
- (4) 市町村等が行う農家間の調整や農地の利用集積等に関する指導・助言
- (5) 都道府県域を越えて行う農地利用調整活動
- (6) その他本取組に必要な事務

#### 第2 助成措置

再生利用活動附帯事業の助成措置は、各年度毎に以下のとおりとする。

- 1 交付金執行事務にあつては都道府県協議会ごとに次により算定される額を上限として助成する。
  - (1) 地域協議会がその区域とする市町村等の区域において、都道府県協議会又は地域協議会が第1の1の(1)から(7)の活動を実施する場合には、1地域協議会当

たり10万円を計上。

- (2) 地域協議会において、当該年度に要綱別紙1第1の1、2及び要綱別紙2第1の1、2の取組に係る再生利用交付金として執行が見込まれる額が670万円を超える場合には、670万円を超える額の1%を(1)に加算。ただし、加算後の額の上限は1地域協議会あたり50万円。
  - (3) 管内の地域協議会毎に(1)及び(2)により算定される額を合計。なお、複数の市町村をその区域とする地域協議会においては、市町村毎に(1)及び(2)により算定される額を合算し、その額を当該地域協議会の算定額とする。
- 2 広域利用調整にあつては、1都道府県協議会あたり150万円を上限として助成することとし、各年度において助成対象とする都道府県協議会は全国で5協議会以内とする。
  - 3 交付金執行事務及び広域利用調整の助成対象となる経費は下表のとおりとする。

区 分	内 容
1 賃金	日々雇用者賃金
2 謝金	有識者、協力者等への謝金
3 旅費	普通旅費、特別旅費(委員等旅費、研修旅費、日額旅費)
4 需用費	消耗品費、燃料費、印刷製本費、修繕料
5 役務費	通信運搬費、手数料、広告料等
6 委託料	事務の委託を行う場合の委託料
7 使用料及び賃借料	会議用会場、物品等の使用料及び賃借料
8 備品購入費	事務の実施に必要な物品や事業用物品・備品等購入費
9 共済費	保険料
10 調査試験費	調査、測量及び試験に要する費用

### 第3 事業実施等の手続

#### 1 交付金執行事務

##### (1) 交付金執行事務に係る実施計画の提出

ア 都道府県協議会長は、当該年度に執行する都道府県協議会及び管内の地域協議会における再生利用活動附帯事業(交付金執行事務)の実施計画(以下「交付金執行事務実施計画」という。)を、地域協議会からの要望等を踏まえつつ、各四半期(第4四半期を除く。)の末日現在において参考様式第8号により作成し、当該四半期の最終月の翌月末日までに、地方農政局長等に提出するものとする。

イ 地域協議会長は、随時、当該年度に執行する地域協議会における交付金執行事務実施計画を、都道府県協議会と調整を図った上で参考様式第10号により作成し、都道府県協議会長に提出するものとする。また、年度途中においてこれを変更する場合も同様とする。

## (2) 交付金執行事務に係る実績報告

再生利用活動附帯事業のうち交付金執行事務に係る要綱第9の各年度の実績の報告は、地域協議会にあっては参考様式第10号により都道府県協議会長の定める日までに、都道府県協議会長にあっては参考様式第8号により事業実施年度の翌年度の5月31日までに提出するものとする。

## 2 広域利用調整

### (1) 広域利用調整に係る実施計画の提出

広域利用調整の助成を希望する都道府県協議会長は、再生利用活動附帯事業（広域利用調整）の実施計画（以下「広域利用調整実施計画」という。）を、参考様式第16号により作成し、事業実施年度の4月末日までに地方農政局長等に提出するものとする。

### (2) 助成対象の選定

ア 地方農政局長等は（1）により都道府県協議会長から提出された広域利用調整実施計画について、次に掲げる項目を満たす場合に限り助成対象候補として選定し、事業実施年度の5月15日までに農林水産省農村振興局長（以下「農村振興局長」という。）へ報告するものとする。

a. 取組の内容が荒廃農地の再生利用に資するものであること

b. 都道府県域を越えた農地利用調整活動が確実に実践できる計画であること

イ 農村振興局長は、アにより地方農政局長等から報告のあった助成対象候補について、下表に基づき算定したポイントの合計値を当該助成対象候補の獲得ポイントとし、ポイントが上位のものから助成対象を決定するものとする。なお、順位付けの結果、同一ポイントを獲得した助成対象候補が複数ある場合には、状況調査要領7の①の区分に該当する状態となっている農地の面積が大きい都道府県をその区域とする都道府県協議会を優先することとする。

表 ポイント算定の考え方

審査項目及び取組内容の基準	ポイント
① 広域性に関する審査	
a 複数市町村（5市町村以上）を受入候補地とし、そのことについて当該市町村と調整済である場合	5
b 複数市町村（5市町村未満）を受入候補地とし、そのことについて当該市町村と調整済である場合	3
c 一市町村を受入候補地とし、そのことについて当該市町村と調整済である場合	1
② 受入体制に関する審査	
a 受入地域側に農地利用調整を担うコーディネーターと引き受	3

<p>け手候補者に対するアドバイザーの両方を設置する計画となっている場合</p> <p>b 受入地域側に農地利用調整を担うコーディネーター、または、引き受け手候補者に対するアドバイザーの何れかを設置、又は、コーディネーターとアドバイザーの両方を兼ねる者を設置する計画となっている場合</p>	1
<p>③ 引き受け手確保の取り組みに対する審査</p> <p>a 引き受け手候補者を対象として、説明会開催、情報ネットワーク構築、ワンストップ相談窓口設置のすべての取組が行われる場合</p> <p>b 引き受け手候補者を対象として、説明会開催、情報ネットワーク構築、ワンストップ相談窓口設置のうち、いずれか2つの取組が行われる場合</p> <p>c 引き受け手候補者を対象として、説明会開催、情報ネットワーク構築、ワンストップ相談窓口設置のうち、いずれか1つの取組が行われる場合</p>	5 3 1
<p>④ 既往の活動実績に関する審査</p> <p>a 都道府県協議会又はその会員において、平成21年度以降に都道府県域を越えて荒廃農地の引き受け手を募集した実績がある場合</p> <p>b 都道府県協議会又はその会員において、平成21年度以降に市町村域を越えて荒廃農地の引き受け手を募集した実績がある場合</p>	3 1
<p>⑤ 地域性に関する審査</p> <p>地方農政局等の管轄毎に、①～⑤のポイントの合計値が最も大きい都道府県協議会に右のポイントを付与</p>	3

ウ 農村振興局長は、イにより助成対象として決定した旨を、地方農政局長等を経由して該当の都道府県協議会長に対し速やかに通知することとする。また、助成対象とならなかった都道府県協議会長に対しても地方農政局長等を経由してその旨通知する。

### (3) 事業の実施

ア (2)のウにより助成対象として決定した旨の通知を受けた都道府県協議会長は、助成対象として決定された広域利用調整実施計画に基づき事業を実施しなければならない。

イ 都道府県協議会長は、事業の実施に必要な経費を、再生利用交付金から第2の2

及び3の定めるところにより支弁するものとする。

(4) 広域利用調整に係る実績報告

再生利用活動附帯事業のうち広域利用調整に係る要綱第9の各年度の実績の報告は、参考様式第17号により事業実施年度の翌年度の5月31日までに提出するものとする。

附 則（平成21年4月1日付け20農振第2208号）

1 ブロック協議会

要綱附則1のブロック協議会の設置、ブロック協議会による本対策の実施等については、この要領における都道府県協議会及び地域協議会に関する規定を準用するものとし、この場合、都道府県協議会と地域協議会との間の手続等は省略するものとする。

附 則（平成22年4月1日付け21農振第2377号）

1 この通知は、平成22年4月1日から施行する。

2 この通知による改正後の耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領（平成21年4月1日付け20農振第2208号農林水産省農村振興局長通知）の規定にかかわらず、平成21年度中に着手した耕作放棄地再生利用緊急対策の取扱いについては、なお従前の例によるものとする。

附 則（平成23年4月1日付け22農振第2142号）

1 この通知は、平成23年4月1日から施行する。

2 この通知による改正後の耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領（平成21年4月1日付け20農振第2208号農林水産省農村振興局長通知）の規定にかかわらず、平成22年度中に着手した耕作放棄地再生利用緊急対策の取扱いについては、なお従前の例によるものとする。

附 則（平成23年9月1日付け23農振第1446号）

（施行期日）

1 この通知は、平成23年9月1日から施行する。

（広域連携等バイオマス利活用推進事業実施要領の経過措置）

2 [略]

（耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領の読替規定）

3 農業者戸別所得補償制度推進事業実施要綱（平成23年4月1日付け22経営第7135号農林水産事務次官依命通知）別紙第1の都道府県農業再生協議会が、耕作放棄地再生利用緊急対策実施要綱第5の2の要件を満たし、その区域とする都道府県の区域において本対策の実施主体となる場合には、第1の2（3）中「地方農政局長等」とあるのは、「都道府県協議会が事務所を置く都道府県の都道府県庁所在地を管轄する地域センター長等（北海道にあっては北海道農政事務所長、地方農政局の所在する府県にあっては当該地方農政局長、沖縄県にあっては内閣府沖縄総合事務局長。）」と読み替えるものとする。



附 則（平成25年1月7日付け24農振第1250号）  
（施行期日）

- 1 この通知は、平成25年1月7日から施行する。  
（従前の取扱い）
- 2 この通知による改正後の耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領（平成21年4月1日付け20農振第2208号農林水産省農村振興局長通知）の規定にかかわらず、平成25年1月7日以前に申請した耕作放棄地再生利用緊急対策の取扱いについては、なお従前の例によるものとする。

附 則（平成25年5月16日付け25農振第241号）  
（施行期日）

- 1 この通知は、平成25年5月16日から施行する。

附 則（平成25年6月20日付け25農振第608号）  
（施行期日）

- 1 この通知は、平成25年6月20日から施行する。

附 則（平成26年2月6日付け25農振第1898号）  
（施行期日）

- 1 この通知は、平成26年2月6日から施行する。  
（従前の扱い）
- 2 この通知による改正後の耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領（平成21年4月1日付け20農振第2208号農林水産省農村振興局長通知）の規定にかかわらず、平成26年2月6日以前に申請した耕作放棄地再生利用緊急対策の取扱いについては、なお従前の例によるものとする。

附 則（平成26年3月20日付け25農振第2245号）  
（施行期日）

- 1 この通知は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年2月3日付け26農振第1696号）  
（施行期日）

- 1 この通知は、平成27年2月3日から施行する。
- 2 この通知による改正後の耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領（平成21年4月1日付け20農振第2208号農林水産省農村振興局長通知）の規定にかかわらず、平成27年2月3日より前に申請した耕作放棄地再生利用緊急対策の取扱いについては、なお従前の例によるものとする。

附 則（平成27年4月9日付け26農振第1696号-2）

（施行期日）

- 1 この通知は、平成27年4月9日から施行する。
- 2 この通知による改正後の耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領（平成21年4月1日付け20農振第2208号農林水産省農村振興局長通知）の規定にかかわらず、平成27年4月9日より前に申請した耕作放棄地再生利用緊急対策の取扱いについては、なお従前の例によるものとする。

附 則

（施行期日）

この通知は、平成27年10月1日から施行する。

附 則

（施行期日）

この通知は、平成28年4月1日から施行する。

（被災者営農継続支援耕作放棄地活用事業等の廃止）

被災者営農継続支援耕作放棄地活用事業実施要領（平成23年11月21日付け23農振第1924号農村振興局長通知）及び耕作放棄地再生利用緊急対策の適切な実施について（平成27年9月16日付け27農振第1314号農林水産省農村振興局長通知）は廃止する。

（経過措置）

- 1 この通知による改正後の耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領（平成21年4月1日付け20農振第2208号農村振興局長通知）の規定にかかわらず、平成28年4月1日より前に申請した耕作放棄地再生利用緊急対策の取扱いについては、なお従前の例によるものとする。
- 2 この通知による改正後の耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領の規定にかかわらず、平成28年4月1日より前に申請した被災者営農継続支援耕作放棄地活用事業の取扱いについては、なお従前の例によるものとする。

附 則

（施行期日）

この通知は、平成29年4月1日から施行する。

（経過措置）

この通知による改正後の耕作放棄地再生利用緊急対策実施要領（平成21年4月1日付け20農振第2208号農村振興局長通知）の規定にかかわらず、平成29年4月1日より前に申請した耕作放棄地再生利用緊急対策の取扱いについては、なお従前の例

によるものとする。

附 則

この通知は、平成30年4月1日から施行する。